



発行:日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人:田中 穂 編集人:金田 慎一
住所:〒680-0847 鳥取市天神町30-5
TEL(0857)26-6605 FAX(0857)26-6615
E-mail:tottori@tottori.jtuc-rengo.jp
ホームページ:https://jtuc-tottori.jp

年頭あいさつ

新年あけまして
おめでとう
ございます



連合鳥取
会長 田中 穂



(白兎神社参道/日本海を望む縁結び兎)

新年あけましておめでとうござい
ます。
組合員のみなさまにおかれまして
は、ご家族お揃いで新春をお迎えにな
られたこととお慶び申し上げます。旧
年中は、連合鳥取の運動に対しまして、
格別のご理解、ご協力を賜り心より感
謝申し上げます。

さて、歴史的な円安、物価上昇、コロ
ナ禍の「三重苦」が、多くの働く仲間と
その家族を直撃し、雇用と賃金・労働条
件が脅かされ続けています。一方で、社
会的セーフティネットの脆弱性もより
浮き彫りになりました。このような中、
コロナ禍の見えない感染リスクと向き
合いながら、それぞれの立場で、大変な
ご苦労ご奮闘を続けておられるすべ
てのみなさまに敬意を表します。

一方、世界経済は、長期化するウク
ライナ侵攻など不安定な国際情勢、先
進国を中心とした金融引き締めなど
により、先行きに不透明感が漂ってい
ます。

社会経済が分岐点にさしかかる中、
2023春闘では、すべての働く人の
賃上げ、サブライチエーン全体で生み
出した付加価値の適正分配、価格転嫁
の徹底などにより、デフレマインドを
払拭し、経済の自律的成長と分配の好
循環を作り出す必要があります。この
危機を乗り越え、くらしの希望を作り
出していくため、今こそ労働組合の真
価を発揮するときであります。連合鳥
取に集う私たちは、社会を変える原動
力として全力で社会的役割を発揮し
ていかなくはなりません。

今年の干支の「卯(うさぎ)」は穏や
かで温厚な性質であることから、「家

内安全」、また、その跳躍する姿から
「飛躍」、「向上」を象徴するものとして
親しまれてきました。他にも「植物の
成長」という意味もあり、新しいこと
に挑戦するのに最適な年といわれて
います。今年は、新しい大きな一歩を
踏み出し、ポストコロナを見据えた社
会变革の起点となる年にしていきま
しょう。

加えて、今年は統一地方選挙の年で
あります。連合鳥取は、この選挙を「地
域と住民のくらしを守るため極めて重
要な闘い」と位置づけています。

4年前の統一地方選挙のときと比べ
ても、国民生活やこの鳥取県を取り巻
く環境は悪化しているといわざるを得
ません。「超少子高齢化・人口減少問題」
「公共交通の存続危機」「厳しい地方財
政」「コロナ禍で露呈した保健衛生の脆
弱性」「甚大化する自然災害」など、すべ
てが労働者・生活者に直結する課題で
あり、社会の基盤が揺らいでいます。

私たちは、働く者・生活者の立場に
たった政策の実現に向けて全力を尽く
すため、その仲間である推薦候補者を
積極的に支援してまいります。引き続
きのご理解、ご協力をお願い申し上げ
ます。

結びに、連合鳥取は、一人ひとりを
まもり、地域をつなぎ、人権が尊重さ
れ、ジェンダー平等と多様性に満ちた
社会の構築に向けて果敢にチャレン
ジし、「働くことを軸とする安心社会」
の実現に向けて、すべての働く仲間と
ともに「必ずそばにいる存在」として
の連合運動を切り拓いていきます。み
なで力を合わせ心ひとつに前進しま
しょう。



賃上げ実現・くらし支援
あしたを変える連合緊急アクション



東・中・西部地域協議会&女性委員会・青年委員会定期総会を開催

東部地協「第29回定期総会」: 12月8日(木)ー16日(金)/書面審議

新型コロナウイルスの感染者が急速に拡大し、東部の病床使用率が51.8%と3日連続50%を超えたため、12月6日、東部地区に「特別警報」が発令されました。このことから新型コロナウイルス感染拡大防止のために、東部地協第29回定期総会を「書面審議」で行うことを地協四役で判断しました。

【結果】〈12月19日付文書で発信〉

- ① 報告・各議案 代議員64人全員賛成 (未回答=賛成として取り扱う)
- ② 質問・意見 3点

青年委員会「第32回定期総会」: 12月4日(日)/とりぎん文化会館



あいさつする堀尾修也委員長



拍手で承認する代議員

中部地協「第28回定期総会」: 12月2日(金)/倉吉未来中心



西部地協「第28回定期総会」: 12月6日(火)/米子コンベンションセンター



女性委員会「第27回定期総会・学習会」: 12月10日(土)/倉吉体育文化会館

【定期総会】

取女性委員会第2



あいさつする寺田委員長



寺田真里委員長(写真左)が退任、新委員長に小谷くみこさん(電機連合/写真右)を選出し、新年度をスタートさせました。



新任あいさつする小谷委員長

【学習会】

「メンタルヘルスケア」と題して、産業カウンセラーでキャリアアップ代表の上田 美鈴さんに「ひとりで悩まず、職場の仲間と支え合うことが大切である」との講演をいただきました。



講師/上田美鈴さん



参加者全員で記念撮影

お世話になりました

むくだ しょういち 勇退 椋田 昇一 鳥取市議会議員

2010年11月の初当選から3期、連合鳥取推薦の鳥取市議会議員として活躍された椋田昇一議員は、任期満了日の2022(令和4)年12月16日(金)で勇退されました。



2023 連合鳥取任務機構

会 長	田中 穂	副 会 長	森 由香里	北畑 仁史	細砂 直	山崎 睦							
事務局長	江口 真也							(◎)局長 (○)事務局					
副事務局長	河村 正之	寺田 真里	吉田 正	松本 善樹	遠藤 史章								
企画委員会	◎山崎	森 (オブ)河村	北畑 細砂 寺田	◎江口 吉田	山口 松本	船岡 遠藤	金田	村尾	盛山	木村			
総務局	◎江口												
組織局	◎船岡	北畑	山崎	江口	◎河村	寺田	◎吉田	松本	遠藤	山口	箕	垣屋	
非正規労働センター	(組織局と同じ)	岩本	岩本	米花	◎国政	寺田	◎小谷	村尾	盛山	木村	高橋	米花	
中小労働局	◎北畑	◎河村	◎寺田	◎吉田	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
中小労働センター		江口	◎河村	◎寺田	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
国民運動局	◎山口	細砂	江口	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
広報・教育局	◎金田	山崎	江口	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
男女平等局	◎森	安藤	石原	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
労働政策局	◎細砂	森	北畑	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
政治センター	◎田中穂	金田	森	◎河村	◎寺田	◎寺田	◎寺田	◎吉田	◎松本	◎遠藤	◎谷本	◎安藤	◎石原
青年委員会	委員長/堀尾	副委員長/安養寺	副委員長/安養寺	小谷透	村中	事務局長/山田							
女性委員会	委員長/小谷	副委員長/長谷川	川本	川本	事務局長/山名								
地域協議会	東部地協 議長/村尾	事務局長/吉田	中部地協 議長/盛山	事務局長/松本									
	西部地協 議長/木村	事務局長/遠藤	※各地協事務局長は連合鳥取副事務局長と兼任										

本年も
どうぞよろしく
お願いします

組合員のため、地域で活躍するために組織拡大は必要！！ — 連合鳥取「組織拡大実務者研修会」開催 —



開会あいさつ／田中穂会長



講師／本間誠一さん



会場の様子

12月17日(土)、新日本海新聞社中部本社ホールを主会場に、連合鳥取「組織拡大実務者研修会」をWeb併用開催し、主会場参加27人、Web参加19人、合計46人が参加しました。

冒頭、連合鳥取 田中穂会長から「組織拡大は最重要課題であり、組織人員の減少に歯止めをかけるためにも、取り組みの前進が必要である」とのあいさつの後、連合本部総合組織局の本間誠一さんから「再雇用・非正規雇用など未加入者への加入活動」と題して、ご自身の経験を交えた講演をいただきました。

その後、取り組み事例報告として、日教組・運輸労連・フード連合の3産別から報告をいただきました。身近な組織の成功事例として、共有することができ、有意義な研修会となりました。



質問する参加者

— 一取り組み事例報告 —



日教組／山根義孝
鳥取県教職員組合
中部支部書記長



フード連合／鈴木和夫
大山乳業農業協同組合
労働組合執行委員長



まとめ／
船岡誠組織局長

主な報告内容

■日教組

組合加入における課題点とその課題解決に向けた取り組みについて

■運輸労連

グループ企業の組織化事例について(産別行事のため河村正之副事務局長が報告)

■フード連合

オープンショップながら高い組織率を維持するための取り組みや課題点について

連合2023春季生活闘争方針(骨子) (第89回中央委員会/2022.12.1より)

2023春季生活闘争スローガン: 暮らしをまもり、未来をつくる。

- 【基本スタンス】
1. 「未来づくり春闘」でデフレマインドを断ち切り、ステージを変えよう。
 2. 「働くことを軸とする安心社会」に向け、格差是正と分配構造の転換に取り組もう。
 3. 「みんなの春闘」を展開し、集団的労使関係を広げていこう。

<具体的な要求項目>

◆賃上げ要求

1. 月例賃金

- ①各産業の「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組み強化を促す観点とすべての働く人の生活を持続的に維持・向上させる転換点とするマクロの観点から、賃上げ分を3%程度、定昇相当分(賃金カーブ維持相当分)を含む賃上げを5%程度とする。
- ②企業内のすべての労働者を対象に、生活を賄う観点と初職に就く際の観点を重視し、「時給1,150円以上」の協定化をめざす。

2. 中小組合の取り組み(規模間格差是正)

- ①賃金カーブ維持分は、労働力の価値の保障により勤労意欲を維持する役割と同時に生活水準保障でもあり、必ず確保する。賃金カーブ維持に重要な役割を果たす定期昇給制度がない組合は、人事・賃金制度の確立を視野に入れ、労使での検討委員会などを設置して協議を進めつつ、定期昇給制度の確立に取り組む。
- ②賃金カーブ維持相当分(1年・1歳間差)を確保した上で、自組合の賃金と社会横断的水準を確保するための指標を比較し、その水準の達成に必要な総額で賃金引き上げを求める。
- ③賃金実態が把握できない場合は、連合加盟中小組合の平均賃金水準(約25万円)と賃金カーブ維持分(1年・1歳間差)をベースとして組み立て、賃金カーブ維持分(4,500円)の確保を大前提に、連合加盟組合平均水準の3%相当額との差額を上乗せした金額9,000円を賃上げ目標とし、総額13,500円以上を目安に賃上げを求める。

3. 雇用形態間格差是正の取り組み

- ①有期・短時間・契約等で働く者の労働諸条件の向上と均等・均衡待遇確保のため、企業内のすべての労働者を対象とし、時給1,150円以上の企業内最低賃金協定の締結をめざす。
- ②有期・短時間・契約等で働く者の賃金を「働きの価値に見合った水準」へ引き上げるため、昇給ルール(制度設計:勤続年数で賃金カーブを描き、「勤続17年相当で時給1,750円・月給288,500円以上」)の導入に取り組む。

4. 男女間賃金格差および生活関連手当支給基準の是正

- ①賃金データにもとづき男女別・年齢別の賃金分布を「見える化」し、勤続年数なども含む賃金格差につながる要因を改善する。
- ②生活関連手当(福利厚生、家族手当等)の支給における住民票上の「世帯主」要件および「証明書類の提出」の廃止を求める。

5. 初任給等の取り組み

- ①初任給について社会水準を確保する。
18歳高卒初任給の参考目標値……180,100円
- ②中途入社者賃金の「底支え」のため、年齢別最低到達水準の協定締結をめざす。

6. 一時金

- ①月例賃金の引き上げにこだわりつつ、年取確保の観点も含め水準の向上・確保をはかる。
- ②有期・短時間・契約等で働く労働者についても、均等・均衡待遇の観点から対応をはかる。

◆「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直し

1. 長時間労働の是正
2. すべての労働者の雇用安定に向けた取り組み
3. 職場における均等・均衡待遇実現に向けた取り組み
4. 人材育成と教育訓練の充実
5. 60歳以降の高齢期における雇用と処遇に関する取り組み
6. テレワーク導入にあたっての労働組合の取り組み
7. 障がい者雇用に関する取り組み
8. 中小企業・有期・短時間・派遣等で働く労働者の退職給付制度の整備
9. 短時間労働者に対する社会保険の適用拡大に関する取り組み
10. 治療と仕事の両立の推進に関する取り組み

◆ジェンダー平等・多様性の推進

1. 改正女性活躍推進法および男女雇用機会均等法の周知徹底と点検活動
2. あらゆるハラスメント対策と差別禁止の取り組み
3. 育児や介護と仕事の両立に向けた環境整備
4. 次世代育成支援対策推進法にもとづく取り組みの推進



湯原 俊二

— 緑肥の想い —

あけましておめでとうございます
本年がみなさまにとって素晴らしい年になりますことをご祈念申し上げます



岸田政権は、昨年末の臨時国会では29兆円の補正予算を組み、その財源23兆円を次世代からの借金で賄い、恒常的な防衛予算の増額も次世代からの借金です。国と地方合わせた借金は1,300兆円近くになり、国民一人当たり1,000万円超の借金です。日本のGDPの2倍を超え、先進国の中でとびぬけて最悪な財政危機の状況です。今の自民政権は、財政規律のタガが外れてしまっています。国民や次世代の負担より自分たち政権の延命を優先しています。

私は、政権交代を実現し、劣勢にある地域や人々を応援する政治に、また子育て、教育、雇用、年金・医療・介護など社会保障を充実させ国民の暮らしを守る政治に、そして次世代に責任を持つ政治に変えたいです。

今年も、政治を変えるために、一緒に立ち上がって頂きますようよろしくお願い申し上げます。

※インターネットで [衆議院TV](#) → [湯原俊二](#) を検索ください。
過去の発言風景がご覧になれます。

湯原さんのホームページもご覧ください



QRコードからも
つながります



「ザ・議員」

伊藤 保 鳥取県議会議員

鳥取県議会「会派民主」と鳥根県議会「民主県民クラブ」は、毎年、交互に両県の諸課題について、現地事例の調査、情報交換を行い、それぞれの施策提言に役立っています。2021年はコロナ感染症拡大のため中止しましたが、2022年は10月25日(火)・26日(水)の2日間、鳥取県内で実施しました。

初日は、鹿野町の「鳥の劇場」で視察をスタートし、淀江傘の伝承状況、JR西労組とJRの現状と雇用対策、2日目は、ローカルエナジーの取り組み、米子市下水道の未利用エネルギーの活用状況を現地調査し、意見交換を行いました。

これからも、相互の視察をしながら情報交換、共有を行ってまいります。



西村 みつこ 鳥取県議会議員

～更年期を「辛年期」に。
みんなで明るく支え合える社会をめざして～

令和4年9月定例会にて初めての代表質問をしました。特に、「女性、多様性の視点から 持続可能な鳥取県へ」のテーマの中で、「更年期ロス」について鳥取県議会で初めて取り上げました。知事からは、「社会啓発や相談体制強化に努める」との答弁があり、私自身も11月に座談会を開催しました。

12月定例会の一般質問では、国に先んじて県庁と県内企業への制度や普及啓発等を提案します。女性だけでなく、男性にも更年期はあります。様々な不調やしんどい思いを、一人で抱えないでほしい。いつでも寄り添う仲間として、私たち議員をぜひ使ってください。



2022年は2月に冬季オリンピックが開催され、また11月にはサッカーのワールドカップが開催された。冬季オリンピックでは、普段ほとんど見ることがない競技も食い入るようにテレビで観戦し、またサッカーのワールドカップも、日本代表の試合が行われた4試合はもちろんのこと、いわゆる強豪国といわれる国の試合もテレビで観戦した▼オリンピックとワールドカップ両大会とも、4年に1度しか行われないというのが原因かどうかはわからないが、昔から何かかテレビの前から離れられなくなってしまう、放送が深夜であろうと時間を気にせず観戦してしまう▼2023年3月には同じく4年に1度行われる野球のワールドベースボールクラシックが開催される。おそらくこの大会もテレビの前から離れられなくなってしまうのだと思うが、年齢を重ねるにつれて、深夜まで起きてテレビを見るのが辛くなってきているのを実感してしまう今日この頃である。

(でんでん)



つるてんてんてん